

技術士 2 次試験に合格して



平元 万晶

(ひらもと かずあき)

勤務先

国土防災技術北海道 株式会社

技術業務部

〒060-0033 札幌市中央区北三条東 3 丁目 1-30 KNビル

TEL 011-232-3521 FAX 011-232-3523

E-mail hiramoto@jce.co.jp

■ 専門：環境部門(環境保全計画)

1. 自己紹介

私は 1975 年(昭和 50 年)岡山県津山市で生まれました。勤務地の最北端はこれまで宮城県仙台市でしたが、北海道に 6 回ほど旅行する機会があり、自然のすばらしさ、都市計画された美しい街並みに感動し、是非、北海道で勤務してみたいと思い、会社へ転勤願いを出して北海道勤務となりました。

大学時代は底生有孔虫と呼ばれる微小なベントス化石の研究を行っていました。学部生の時代はフィールドをまわって地質調査を行い、採取した岩石サンプルから微化石を分類して地質構造の調査をしていました。その後の修士課程では底生有孔虫群集の種構成から推定される堆積環境や、古海洋の環境復元などの研究をしていました。

2. 技術士試験の動機

入社後は土砂災害関係の調査設計業務のほか、様々な計測機器の設置管理、データ収集整理、解析を行ってきましたが、一番の受験動機の 1 つとなったのは東日本大震災関連業務で環境調査に関わる機会があったことでした。

また、仕事柄、古い撮影年度の空中写真を見る機会が多くあります。海に面した工業地帯で、かつてはすばらしい砂浜や干潟であったような場所を見ると、趣味でバードウォッチングしていることもあり「今もこの砂浜が残っていればシロチドリの写真が撮れるのになあ」と思うようなことがあります。こういった生き物が生息する環境を残すことの必要性を感じる機会があったことも関係していたのかもしれない。

3. 技術士試験までの道のり

環境部門を受験する前の年から、東京都の小笠原で 2 ヶ年に渡る業務の担当となり、延べ 19 回、父島・母島へ出張する機会がありました。小笠原への交通手段は片道 24 時間の貨客船「おがさわら丸」し

かありません。試験勉強は 38 日におよぶ船上での移動時間を利用しました。

人間、どんなに長時間寝ようとしても 14 時間～15 時間くらいが限界です。限界まで寝ても 10 時間以上の時間が余るので(実際は、一番安い 2 等船席だったので床が硬く、そんなに長く寝ると体が痛くなって目が覚めてしまうのですが)一部は業務のための時間、一部は試験勉強時間としました。移動中は太平洋の真ただ中なので電話もかかってきません。

勉強方法は特別なものはなく、択一問題は過去問で 8 割正解を目標に、筆記試験は過去のキーワードに関する論文をとにかくたくさん目を通して知識を蓄積しました。また、記憶力を高めるために、バランスのよい食生活、十分な睡眠時間、適度な運動量を確保する点には注意しました。

本番の筆記試験は「もうどんなに絞っても 1 滴水がでない」くらい、頭の中にある知識を絞り切るような苦しいものでしたが、幸運にも大学での研究内容や、業務経験に関連して記載できる設問があり、なんとか合格ラインまで到達することができました。

4. 今後について

アメリカの中学生の英語の教科書を見ると、技術に関する学習内容についても分かりやすく、非常に内容が充実しています。また、WEB 上には英語で作成されたファクトリーオートメーションの解説教材がたくさんあり、アメリカは本当に科学技術立国なのだなあ、と感心させられることが多くあります。

一方、日本では学生の理系離れが問題となっています。今後は技術士として、科学や技術の楽しさだけでなく、「学ぶこと」そのものの楽しさを伝えることができるようなアウトリーチ活動にも取り組んでみたいと考えています。